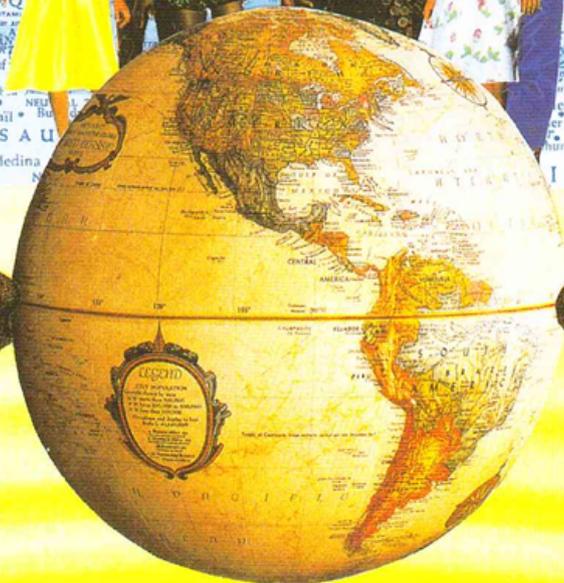
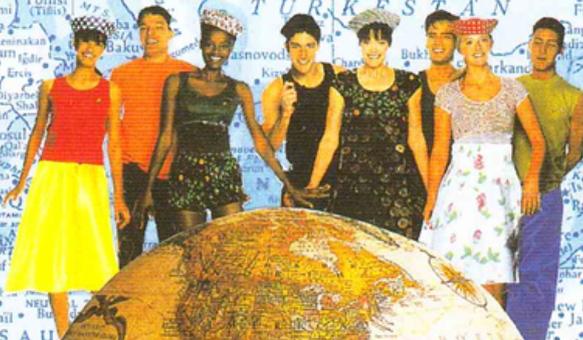


# 学友会 (関西)



1998

Dedicated To International Peace and  
International Understanding



# YO NE YA MA

# 14

ロータリー米山奨学生学友会（関西）は関西地区に  
居住する米山奨学生**OB**及び現役奨学生の団体です

## 目 次

旅のころ	清河 雅孝	…P. 3
学友会（関西）会報によせて	吉田 精一	…P. 4
ロータリー米山奨学生学友会（関西） 97年度総会及び新規奨学生歓迎会に参加して	中澤 章好	…P. 5
秋の懇親会1997年	蔡 秀 娟	…P. 5
’97年度のテーマ『日本での楽しい旅』		
四国の旅	林 紅	…P. 7
私の新婚旅行	権 貴 玉	…P. 8
心の旅路（日本）	李 利 範	…P. 9
隠岐島、小泉八雲の跡を追って	ガーンズ, バルト	…P. 10
京都・御室新四国	トーステン, マリー	…P. 11
飛驒の旅	莊 発 盛	…P. 12
京都の旅	ニンユユコ	…P. 14
京都の旅	孫 宝 磊	…P. 14
神戸の旅	葉 意 雯	…P. 15
1997年米山奨学生学友会関西地区役員名簿		…P. 18
1996年会計収支決算報告書		…P. 19
1997年会計予算案		…P. 20
米山奨学生学友会（関西）1997年度活動報告		…P. 21
米山奨学会 学友数		…P. 22
1997年米山奨学生学友会関西地区会員名簿		…P. 24
編集後記		…P. 25



## 旅のこころ

ロータリー米山奨学生学友会（関西）会長

### 清河 雅孝（台湾）

京都産業大学教授・法学部部長

人生は旅である。留学はこの旅の一駒にあたる。この一駒の人生をさらに延長したのが在日学友の生活であると言えよう。

人間は、生活の日常性を脱出し感動をえるべく旅に出かける。感動なしに人生はあり得ない。感動とはだれにも侵されることのない自分ひとりの魂の世界だからである。小生はよく旅をする。公務に忙殺されている現在でも年に数回旅に出かける。学生時代、夏休みを利用し友人と九州を旅行し対馬に渡った。帰る日に台風に遭い、1週間足止めされ、日ノ岡留学生寮に辿り着いたときに、ポケットには百円しか残っていなかった。しかし、その1週間でえた現地の人々の親切さと友情の温かさは終生忘れられない。

勉強が忙しくて旅行ができないという留学生の言葉をしばしば耳にする。しかし、例外なくこの言葉は、後悔のもとになっている。小生のような破滅型の旅は薦めない。しばし、研究や仕事を置いて旅に出かけるといい。人生を豊かにするからである。では、旅にまつわる諺をいくつか挙げて旅のこころをアラカルト風に述べてみよう。

#### 1. 名物にうまいものなし

旅の楽しみは何と言っても食べることにある。また、旅人の帰宅を待つ家族、職場、研究室あるいは下宿先のおみやげは、もっとも自然的な人間関係の活性剤でもある。これがあれば、行き詰まった苦しい人間関係が逆転する場合さえある。

だが、旅人は、しょせんその場限りのお客様である。味が良かろうが悪かろうが見た目にかにも土地の名産らしく映えればそれで良い、買ってくれるのである。だから昔から名物にうまいものはない、と言われるのだ。

しかし、飽食かつ豊食の昨今、人々の舌は洗練されているから味の良くない食べ物はもう売れない。貰った人が一口食べただけで二度と口にしようとしなないものを買う人もいない。だから名物も美味になってきた。「旅行

けば駿河の国にお茶の香り。」有名な浪曲、次郎長伝の冒頭である。静岡の川根路茶は美味である。伊勢の名物赤福餅も一昔前に比べると味が良くなった。京都の五色豆でさえ柔らかく仕立て上げられて食べやすくなっている。かつては山陰の名物だった毒々しい赤や緑の「しょうが糖」はすっかり姿を消した。名物もまずかったり有害な添加物を用いているようでは生き残れない時代である。

ところで、何でも見てやろう、食べてやろうというのが筆者のポリシーである。人を知りたければ、その食卓を覗けば良いと同様に、あの地方を知りたければ、生鮮食品の市場をぶらぶらしてみれば良くわかる。京都の錦市場に行けば、京都人の繊細さが良くわかるし、京都がハイテクを生み出す町であることも納得できる。東京のアメ横と大阪の黒門市場は、異なる文化の香りを醸し出している。だが、刺身、納豆、塩から、鮎すしまたはカブラすしを食べない人も結構いる。蓼食う虫も好き好きとも言われているが、食べないものが多いほど人間の可能性も狭まるであろう。

#### 2. 旅は道連れ世は情け

旅先では旅行者同士が親しくなる。見知らぬ者同士であっても乗り物で隣り合わせたり、偶々徒歩で行く処がおなじであったりして二言三言、会話を交わすうちに親しくなる。一方が缶切りがなくて困っていると他方が貸してやったり、幼児がむずかると一緒にあやして助けてあげたりする。利害関係がないから心を通じ合わせることも容易である。旅先では日常と異なり何かと不自由だから自ずと助け合う。ほのぼのとした心の交流が始まる。旅は、人のこころを豊かにする。毎年秋期の懇親会で行なわれている小旅行は、学友の交流に大きく貢献している。

#### 3. 旅の恥はかき捨て

旅先では不自由をしのぐのに外聞を気にしてはいられない。旅の途中で雨に降られた男が飛び込んだ店先に女ものの傘しかなければ

それを買ってさすしかない。言葉が不十分でも身振り手振りして意志疎通を図る。どうせ知らない人ばかりだから体裁を気にする必要はないのである。体裁を構うと、旅は窮屈になる。

だが、少々のはめをはずす行為は許されるが、土足で和室に上がるほど慣習を無視した行儀の悪いことはしてはならない。人の道に外れた振る舞いは言語道断である。かき捨てる恥にも自ずと節度がある。

#### 4. 可愛い子には旅をさせろ

いろはカルタの一句にも採用されている。子供をついつい甘やかしがちの親に対する警告である。日本は昔から子供を親の所有物のごとく観念するお国柄である。子供を道連れに心中する親は、今に至ってもあとを絶たな

い。だからやたら子供を猫可愛がりする。だが過保護はかえってその子を駄目にする。子供に力強い充実した人生を歩ませようと思えばときには親も勇気をふるって子供を突き放さねばならない。ひとりでなくとも子供たちだけの旅は不安に打ち克ち必要な事柄を自分たちでやり切ることになるから、独立心を高め自信を付けさせることにもなる。いずれ子供は親から離れ自立すべきときが来る。過保護に育つと適応力を欠きその子が後々苦勞するだけである。子供を可愛いと思うならその子のためにも自立の予行演習をさせておくべきなのだ。

われわれは親元から離れて旅している。せっかくの機会だから、新世界を発見するもう一つの旅に出かけるのもどうだろうか。



## 学友会（関西）会報によせて

国際ロータリー第2650地区 米山奨学委員会委員長

吉 田 精 一

（長浜ロータリークラブ）

学友会1998年度会報を出版されるよしご案内を頂き活発な活動をしておられることにまずお祝い申し上げます。殊に注目すべきことは、それぞれの国で若い世代を教育する立場の大学教授が多数活躍されていることを喜ばしく思います。

殊に当地区では20年前に米山奨学生として京都西南ロータリークラブがお世話をして京都大学で医学博士の学位を取得された、ソウルの、林隆義氏が韓国第3650地区ガバナーに就任されたことは此の事業始まって以来の出来事でこんな嬉しいことは有りません。

このように今や韓国・台湾を始め、主としてアジア諸国の社会各層で素晴らしい活躍をされております。奨学生としてロータリーと縁が出来た当時は難しい日本語で日本人と交わり日本の文化に直接触れ、苦勞された経験の持ち主です。奨学生として卒業された後も日本に残り研究を続けておられる学友も多く、やがて21世紀の貴重な指導者と成られることを信じて居ります。

当地区では一人でも多くの学友と交流が持てるよう、グリーティングカードを送り、交流会を開いて努力しております。これからも活発なロータリー活動を通じて、奉仕で愛の恩返しをしようと皆様の活躍を期待しております。



## ロータリー米山奨学生学友会 (関西) 97年度総会 及び 新規奨学生歓迎会に参加して

国際ロータリー第2660地区 米山学友委員会委員長

中澤 章 好

(大阪住吉ロータリークラブ)

97年米山奨学生学友会(関西)総会及び新規奨学生歓迎会が1997年6月15日(日)大東洋(大阪市北区)において清河雅孝会長ののもとに開催されました。

総会では皆様のお蔭をもちまして創立12周年を迎えることになり、これはひとえにロータリアンの皆様のあたたかいご支援とご協力の賜物と理解し、学友会の今後の発展のため一層の国際理解と国際親善に努力しようと会長が述べられ終了しました。

引き続き、新規奨学生歓迎会が開催され、近い将来米山奨学生が彼等の国と日本との架け橋となってくれるであろうことを期待しながら有意義な歓迎会も楽しく無事終了しました。

第2660地区米山奨学委員会では、米山奨学会活動のあり方の基本方針及び展望等の検討、対策をはじめとして、奨学金の確保充実、

奨学生の選考、奨学生との接触と世話活動の強化充実、世話クラブ及びカウンセラー活動への協力支援を行い、学友会(関西)との連携活動を円滑にするために下記委員会を設置しました。

- (1) 米山寄附金委員会
- (2) 米山奨学生選考委員会
- (3) 米山奨学生委員会
- (4) 米山学友委員会

さらに、第2660地区米山奨学委員会では、社会情勢の変化にともない、幾多の課題を負っている今の制度の見直す時期にきているように思えるので、検討委員会を発足し、その発展と充実のために考えて行く所存であります。

学友会(関西)の益々のご発展と、皆様のご意見ご協力をお願い申し上げます。



## 秋の懇親会 1997年

元世話クラブ：西宮甲子園ロータリークラブ

蔡 秀 娟 (台湾)

1997年、文化の日の前日、11月2日(日曜日)、ロータリー米山奨学生学友会(関西)恒例の秋の懇親会が開催されました。スペシャルゲストである第2650地区米山奨学会副委員長の苅坂毅先生を始め、学友会会長の清河雅孝先生ご夫妻、相談役の重光世洋先生、大塚賢龍先生ご夫妻、そして、役員とメンバー

とその家族の皆様総勢51名の方々が参加されました。

朝からちょっと肌寒かったですが、しかし、天気は上々の秋晴れでした。しかも降水確率ゼロパーセントの行楽日和でした。朝九時前、大阪中央郵便局の入り口前で、参加者の皆様が続々とやってきました。9時半、今回の目

的地姫路セントラルパークを目指して出発しました。発車後ゲストと役員達の紹介が終わったあと、スケジュールの都合でお昼の食事タイムが遅くなるため、出発早々車内でポッキー、ハイチュー、スナック等の入っているお菓子の詰め合わせと飲み物が配られました。皆も早速袋を開けてお菓子を口に運びながら楽しそうに雑談を交わしたり飲み物を飲んだり車窓から外の景色を眺めたりしていました。

大阪を出たあと、観光バスが阪神高速道路に沿って、中国自動車道へ平穏に走りました。途中で第二神明道路サービスエリア(DAINI SHINMEI DORO SERVICE AREA)で約10分間の休憩をとりました。SAを出て観光バスが播但連絡道路に向かって走り続けました。お昼頃、姫路ICを下りてしばらくしてからやっとセントラルパークに到着しました。

連綿たる小山に囲まれながら緩やかな山麓に沿ってできた姫路セントラルパークは二つの主な部分からなっています。ウェストサイドパークがサファリ・動物園(パーク)であり、ライオン、トラ、ゾウ等の野性動物が放し飼いにされています。これはまた二つに分かれています。楽しみ方も違います。一つはドライブスルーサファリ(マイカーやバスで廻れるサファリで、チーター、ライオン、トラの肉食動物や、キリン、カバ、ゾウの草食動物を車窓から至近距離で観察できる)、もう一つはウォーキングサファリ(歩きながら放し飼いにされた水鳥やカンガルーなど人気動物と間近で触れ合うことができる)です。イーストサイドにプール、レストラン、遊園地があります。今回はウェストサイドから廻って行きました。動物園では普段動物達が檻や柵に入っているのとは逆に、ドライブスルーサファリでは、私達見物人が檻みたいバスや車に乗って移動します。陸続と前進する前と後ろの車をみると一瞬にそう連想させられました。移動の際、スピーカーから“サファリでのご注意”が流れてきました。皆がちょっと緊張気味でそれに耳を傾け注意を払いました。まるでアフリカ旅行にでもなった気分でした。最初に出会ったのは地上最速の動物のチーターで、その次は例のライオンとトラでした。草食動物ゾーンに入って、先ほ

どの緊張から解放されたように皆もほっとした表情でした。

ウェストサイドのドライブスルーサファリの見物が終わって、今度はウォーキングサファリに廻りました。フリータイムでチャイルズファームを訪れました。ここで牧羊犬や羊、アラブ種の馬や小型馬ポニー、兎やモルモット(テンジクネズミ)と触れ合いました。目の前にいる動物の可愛さ美しさ、迫力を感じることができました。大人も子供も思わずに微笑んでやさしい歓声を上げて感動しました。

昼食は中世ヨーロッパの建築を模型にした“風の城”の中にあるレストランでピフテキ風のバーベキューをしました。皆肩を並べて4~6人でひとテーブルを囲んで楽しく美味しい食事をした後フリータイムでプレイゾーンを廻りました。ちょうど大観覧車の斜めにある広い芝生で“釣り名人の王様・村田基の全国ツアー”というイベントがありました。最後まで見ていたら、何とプレゼントでルアーをもらいました。残り時間があまりなかったのも、ジェットコースターとバンパーポットに乗ることしかできませんでした。3時半になって皆が観光バスに戻り、人数確認をしてセントラルパークをあとにしました。

帰途中、くたびれているようで寝てしまった人もいました。遊びすぎたのかと思った途端に、バスガイドさんがアニメーション映画「ルパン三世-黄金のバビロンの塔」をかけてくれました。映画を見ているうちに夕方となりました。出発時と違って、観光バスが真っ赤な夕日を浴びながら、ハイウェイをひたすら走り続けました。三宮を通り過ぎる時、ポートタワーと神戸の百万ドルの夜景がぼんやりと見えてきました。六時半過ぎた頃大阪に着きました。天候にも恵まれて今回の懇親旅行は正に風と緑、そして大自然と光りの旅でした。

# '97年度のテーマ『日本での楽しい旅』



## 四国の旅

元世話クラブ：小牧ロータリークラブ

### 林 紅（中国）

京都大学化学研究所助手

研究室の「旅名人」中田さんに勧められ、昨年9月、初めて主人と一緒に4日間にわたる車での四国の旅を楽しんできた。

一日目。青空、微風。

京都から名神高速に乗り、わくわくした気持ちで旅を始めた。神戸線が阪神大震災で壊れていたため、西宮インターで高速を降りた。震災時のテレビの悲惨な画面を頭に浮かべ、少し落ち込んだ気持ち。国道がかなり込んでいたので、明石港に着くまで、大分時間がかかった。

淡路島に行くフェリーの待ち時間は2時間40分。環境汚染を配慮し、エンジンを止めていたため、車の中は熱かった。車をフェリーに乗せ、デッキに上ると、涼しい潮風が先ほどの熱気を吹き消した。ほどなくして、建設中の明石海峡大橋のパノラマが眼前に現れた。なんと壮観な景色（写真）。それは本州と淡路島をつなぐ唯一の橋であり、でき上がると、本州から四国に行く時間がかなり短縮される。ところで、フェリーの乗船時間は待ち時間よりずっと短かった。明石大橋の必要性をしみじみ感じた。

淡路島東岸のシーサイドラインを、崖上から海を見下ろして快走し、四国に通じる大鳴門橋に向かった。大鳴門橋からのうず潮の展望はすこぶるよいらしいが、全線駐停車禁止で、走り抜けるしかなかった。神戸が渋滞だったせいか、うず潮観覧船のりばに着いたのは夕方4:30で、4:20の最終便に間に合わなかった。最大で直径30メートルにもなるという大迫力のうず潮を観覧船から間近に見る機会を逃してとても残念がっている表情を、写真に撮られた。主人は遠くからわずかに見えていたうず潮をカメラの望遠レンズで見せて、私を慰めてくれた。夜、徳島の旅館でうず潮にもまれた魚を味わうことができた。

二日目。曇り後大雨。

朝早く、徳島体験館に行った。円形映画館にて有名な阿波踊りの映画を鑑賞し、壮大な画面ととどろく太鼓の音に感動し、踊りたくなってしまった。体験館では先生に踊りを習い、太鼓をたたいたり、ゆらゆら揺れるかざら橋を渡ったりと、色々な面白い体験ができた。

体験館を出て、降りしきる雨の中、海岸に沿って、室戸岬に向かった。シーサイドラインには車が少なく、気持ちよく走れた。乱礁に囲まれた岬。雨の中、滔々たる白波が岩礁に砕け散った。ところで、室戸岬の岩は女らしい岩で、南四国の足摺岬の岩は男らしい岩だと聞いた。次回は是非足摺岬に行って、比べてみようと思った。

室戸スカイラインを走りながら見下ろすと、岬の先が尖っているのがよく分かった。展望台に登れば、岬の景色は一望できると期待したのだが、雨後の岬は霧が深く、何も見えなかった。しかし、展望台から降り、岬の先の室戸灯台から雄大な太平洋を間近に眺めることができた。

鋭く尖った室戸岬を降り返し、国道55号線に沿って高知へ向かった。ライトアップされた高知城や、道端の長尾鶏の石像を夜に観光して回った。

三日目。快晴。暑い。

高知市の南にある桂浜の風景にうっとりした。碧海、青松、鳥居、小橋、階段、あずまや、それらが皆一体となって巧妙に調和している。まさに絵のような景色だ。展望台に登り、広々とした紺碧色の太平洋を目にした。素晴らしい。他に言葉がない。また、浜には維新の志士、坂本竜馬の像が立っていて、ずっと観光客を見守っている。

次に、桂浜の近くにある竜河洞を見学した。変化に富んだ美しい鍾乳洞だ。洞内ハイキン

グは一周一時間。洞を出てすぐのところに長尾鶏展望館がある。2メートルから10メートルというながーい尾。小さなかごに閉じ込められ、ちょっとかわいそう。出口に「中日両国人民的友誼万古長青」（中日両国人民の友誼はいや榮えに榮える）という額がかかっていた。これは、78年北京動物園が日本から長尾鶏を贈られた際の感謝の気持ちを表したものだ。

山道を通して、有名な大歩危、小歩危に向かった。曲がりくねった清流の変化が大歩危の見所。美しい溪谷に目を奪われ、途中、何度も足を止めた。

夕方、憧れの瀬戸大橋に着いた。助手席に座っていた私は雄大な瀬戸内海の夜景を存分に楽しんだ。瀬戸大橋から降りられる唯一の島、与島のサービスエリアで休憩し、夕日に染まる壮観な大橋をずっと眺めていた。

四日目。碧空。爽快。

休日のためであろうか、岡山城を囲む美しい後樂園には観光客が多過ぎて、駐車してゆっくり城を見ることができなかった。岡山城は黒を基調としているため、烏城とも言われると聞いた。

最後の観光地はかの有名な姫路城。姫路城の色は、岡山城と正反対で、白をベースとしているため、白鷺城とも言われると聞かされた。私には重みを感じる烏より、白鷺の方が明るく、美しく思われた。

楽しい旅は終わった。どこに行っても出会った人々が暖かく迎えてくれて、日本らしい旅ができたと思った。旅の疲れは一日でなくなったが、素晴らしい記憶は心の中で永遠に残してある。これからも日本の旅、世界の旅を存分に楽しみたいと思い、そして、いつの日か宇宙遊泳の旅にも行きたいなあと思っている。



私は、日本に来て十五年になります。はじめに着いた処が京都でしたので、自然と京都弁を話すようになりました。又友達も京都に多くいて、京都に親しみを感じるし大変好きです。ですから、それほど京都を離れてどこかに旅行しようともあんまり思いませんでした。又学生の時はいくらか経済的に余裕がなかったので、あちらこちらまわる事が出来なかったの

## 私の新婚旅行

元世話クラブ：京都園部ロータリークラブ

権 貴 玉 (韓国)

画家

も事実です。しかし六年間の学生生活が終り結婚しましたが、新婚旅行も行かずに夏になりました。

主人と私には共通の親しい友人がいます。彼女は原毛屋さんで、英国とか、ニュージーランド等の国から色々の種類の羊の毛を輸入して物作りの人やアーティストに販売したり、教えたりする人です。それで日本を全国

を車に原毛や道具等を積んで走り回っています。その年の夏の終りに彼女が北海道に車で行くというので一緒に便乗することになりました。その他に赤ん坊を連れて里帰りする友人と賑やかな新婚旅行の出発です。

舞鶴からフェリーで函館まで行きました。そこから車で札幌にいる友人のところに行き、久し振りに再会し、彼らの車を借りてようやく二人だけの新婚旅行に出発しました。主人も初めての北海道でしたので、地図を見ながら温泉があるところなどで泊まり、やはり本州とは違う青くて広い（特に私達は宇治の山の中に住んでいるので空が狭いのです。）空、雲、どこまでも続く緑の平野が印象的でした。何日間があつという間に過ぎ、帰りも又彼女の車に乗せてもらい青森に渡りました。盛岡には彼女の友達がいてそこで泊めてもらうことになりました。たまたま京都で飲屋さんをしている友人が遊びに来ていてその晩は珍しい東北の魚等のおいしい料理をごちそうになりました。青森では「棟方志功」の版画美術館に行ったり織物等の工房を見学したりと、興味のある処が多く楽しい一時を過



生まれた母国を離れて留学するものには、留学生活は様々な面における初体験の連続であろう。留学生を旅行者に比喻すると、留学の国は初めて訪ねる海外旅行地となるだろう。しかし、留学生の気持ちは観光客のそれとは違うものであるはずであろう。好きなように何日間泊まりながら、周囲の異国の光景を楽しめる旅行者のような心の余裕はない。留学生には、馴染みのない生活環境に適應する過程で感じる緊張感があり、次々と与えられる研究の課題を乗り越えなければならないという圧迫感もある。更に、学費や生活費に恵まれなかったら一番辛い経済的苦痛にも悩まされる。

このような留学生にとって日本国内での旅

ごすことが出来ました。

それからその友達がおもしろい温泉を知っているというので行くことになりました。そこはおとし寄りや体の具合の悪い人が長期間でも泊まりながら温泉につかって体を休める温泉です。少し山の中に入った処にある古い昔ながらの建物ですが、若い人向けのもある盛況です。湯舟は広くて外の景色を見えなかなか良いのですが混浴の上に、道行く人からも丸見えます。私達には初めての経験でしたので入口でとまどい、ためらっていると、おっばい丸だしのおばあさんが、「何をそんなに迷っているの？それぞれみんな同じなんやで！」それでひらきなおりました。意識しすぎるから、おかしくて目だつのです。自然になろうと思ったら楽しくなりました。ここ大沢温泉での印象が、今、振り返ると一番楽しくおもしろかった良い思い出になりました。

旅行から帰ってすぐ長女が出来ましたので、主人は混浴の温泉に入ったから誰の子か知らないと言って笑ってますが…。長女はお父さんがとても好きで、よく似ていますのでご安心を！！。

## 心の旅路（日本）

世話クラブ：大阪天満橋ロータリークラブ

## 李 利 範（韓国）

大阪大学博士課程

行は手が届かないところの贅沢なものになるかもしれない。時間を設けることと心に余裕をもつことに加え、物価の高い日本を旅行するために必要な旅費を貯めることすべてがなかなか揃わない。

ところが、留学生活は一つの外国旅行に間違いない。その旅行は長期滞在を伴うものとして、場合によっては留学生活をしなければ経験できない楽しめる面もあり辛い面もある。留学生にとっては、留学先の国全体が旅行先、観光地となるかもしれない。自然の風景、言語、習慣、歴史的遺跡や遺物、宗教、行政制度、人との付き合い、町の建物等が異なり、目を大きくしてみると珍しいものばかりだろう。

研究生活の中で、区切りが出来れば旅に出かけてみよう。研究室から一時的に離れたい気持ち強い時、専攻以外の世界に旅立ちたい時、研究に追い詰められている心の安らぎを求める時、出かけてみよう。何日間の、手間がかかる、少なからぬ旅費がかかる、有名観光地への旅行ではなくても良い。近いところ、人気が少ないところでも、わずか何時間の旅でも良い。好きなところ、日本のもの、日本人の心との触れ合いができるのであれば、日本への旅となるだろう。

留学生にとって面白い旅先は、周辺近いところに意外に沢山あると思う。近所の図書館、博物館、記念館、展示館、公園は、季節が変わる度に、その様子を変えながら、いつも訪れてくれる旅人を待っている。

私は、たびたび大阪市淀川橋の中之島図書館周辺を訪ねる。図書館で資料を調べるためではない。心の安らぎのためである。片道一

時間程度の距離に位置しており、都心であるにも関わらず川が流れている。その周辺の風景は綺麗に整理されているが、周りは走る車で煩く、空気や川の水もあまりきれいではない。しかし、そこに行くと不思議に心が落ち着く。明治時代の日本の風景も感じられるところである。もう一つの近い旅先がある。元来怠け者なので、遠いところへの旅は滅多に行かない。学校近くに大阪モノレールが走っている。天気の良い日、特に大雨が上がった直後は良い旅となるはずである。車道の上を走るモノレールの車窓から眺める風景は、綺麗な空と調和し、素晴らしい日本の風景画を演出してくれる。基本料金でこの絶景を二回鑑賞する日もある。

米山の留学生皆さん、私のような近い旅先を見つけてみないか。素晴らしい日本の心の旅路は日本どこでも必ずあるはずだ。



私の在日滞在はすでに六年になろうとしています。日本で旅行するのが大好きですが、やはり二つのことが気になります。一つ目は、旅費、宿泊費などがかなり高いので特に学生としては辛いということです。二つ目は、日本の有名な景勝地、古跡、お寺、神社、お城など、要するに日本の名所を尋ねますと、どこ行っても人が多いということです。休日とはくにそうですが、平日の奈良の大仏、京都の金閣寺、日光の東照宮は高校生や一般人の団体旅行でにぎわっています。ガイドさんがメガフォンを使って大声でその場所の案内をしています。しかし、それはその場所の魅力を取り除いてしまい、本当に残念に思います。

この間、Lafcadio Hearn著の「知られぬ日本の面影」(“Glimpses of Unfamiliar Japan”)という小説を読みました。ラフカデ

## 隠岐島、小泉八雲の跡を追って

世話クラブ：京都乙訓ロータリークラブ

### ガーンズ、バルト (ベルギー)

総合研究大学院大学博士課程

ィオ・ハーンは1890年日本に来て、松江で生活して、後に帰化し小泉八雲を名乗りました。われら西欧から日本にやってきた留学生の大先輩とも呼ばれるハーンはこの小説に彼の日本像を語っています。彼はヨーロッパ人として初めて島根県の隠岐島を訪れ、この諸島を大好きになりました。その島々は、日本のどこよりも、文明の高い精神的な圧迫感から脱出できる場所であるからだ、と書いている程です。現在に至るまでそうであるかを確かめたくて、隠岐島に旅をすることにしました。

「旅行」より「旅」をしようと思いましたので、JRの青春十八切符という普通電車乗り放題のチケットを買いました。かなり時間がかかりますが、やはり新幹線などより「旅」という感じがするのは間違いありません。出雲大社と松江市を見学してから、隠岐に渡り

ました。松江の近くにある七類から船で数時間離れたところにある隠岐島は八世紀から犯罪者などの遠流の地として使われ、後鳥羽上皇、後醍醐天皇が鎌倉幕府に配流された島として有名です。

島前と呼ばれている島ではハイキングに行き、漁村、配流の地としての史跡などを訪れましたが、島後というメイン・アイランドをひとまわりするために、車をレンタルすることにしました。ラフカディオ・ハーンはその小説の中で隠岐の人々の暖かい親切さを描き、外国人である彼に対する土地の人々の歓待に感動したと書いています。しかし、現在の隠岐の人々は、この島には外国人がほとんどいないからか、あるいは本州から離れているせいか、外国人に対して恐怖感をもっているのではないかと思います。なぜかといいますと、カー・レンタルを営んでいた年配の夫婦は疑いの目で私の運転免許を見、車のレンタルをしぶしぶ承知してくださいました。しかし、事故を起こさずに、いわれたとおり再びマンタンにした車を返しにいったとき、おじさんが警察を呼んでいました。このような市民の責任感は確かに悪いことではないと思いますが、社会的コントロールはある

意味でこわいものでもあったと感じました。

ラフカディオ・ハーンの時代には隠岐は犯罪のない平和的な諸島であって、約三万人もの人口を管理するには十人の警察官しかいなかったそうです。今もそれほど警察官がいらないと思いますが、そのうちの一人にしばらくのあいだ出身、所属、旅行の目的などについて尋ねられたこともこの旅行のいい経験となりました。

それにしても、今の隠岐は百年前のそれとはあまり変わらないと思います。何よりも印象に残っているのは隠岐島の美しい自然でした。その美しさというより、むしろその損なわれていない風景が特徴といえます。海岸の高い崖、吹きさらしの山腹、その未開地としての荒れた性格が忘れられません。そのうえ、ちょうどそのときかなり強い台風が近づいていて、暴風を顔に感じながらしばらく海岸にたたずみました。押しよせてくる荒波の日本海はとても印象的でした（その台風で被害がなくてよかったです）。ラフカディオ・ハーンの見た隠岐はそのまま残っていますので、ストレスの多い大都市から脱出したい方にぜひお勧めしたい。



私は、今回で3度目の来日になりました。夏の終わり頃に京都の同志社大学に着いてから、もう4ヵ月になりましたが、研究が忙しくて、なかなか旅行に行く時間がありません。学会のために東京に行ったりしますが、新幹線は何回も乗ったので、あまり楽しくありません。でも、私はとても運がよいのです。というのも、私の住んでいるマンションのすぐ近くに、歩いて行ける素敵な「旅」を見つけたのです。私は、週に一、二回、その旅に出かけます。

私のマンションは、京福電鉄御室駅のそばにあります。目の前は、有名な仁和寺です。

## 京都・御室新四国

世話クラブ：京都東ロータリークラブ

トーステン、マリー（アメリカ）

同志社大学

仁和寺には伝統のある立派な建物が多く、文学の舞台にもなっているところです。ここまで書くと、私が仁和寺の「旅」の話をするのかと思われるかも知れませんが、少し違います。私の「旅」は、その仁和寺の裏にある、成就山という小さな山です。そこにあるのは、「御室新四国」です。

皆様は、四国の八十八ヵ所巡拝を御存じだと思います。私は1度目の来日の時は四国に住んでいたため、話を聞いただけではなく、実際に巡拝している人たちを見かけたことも何度もあります。杖をもって、白い服を着て、一日に何キロも歩きます。私もやってみるか

ったのですが、とても大変そうで、時間もかかるので、結局できませんでした。ところが、成就山には、その八十八ヶ所巡拝が一日できてしまう巡拝コースがあるのです。距離は約3キロメートル、所要時間は約2時間ですが、散歩するなら1時間くらいです。そのなかに、私の部屋より小さいけれど、ちゃんと立派な仏像のあるお寺が、八十八ヶ所にあるのです。

ただの小さな四国で、偽物だと、馬鹿にする人があるかもしれませんが、そうではありません。御室新四国が出来上がったのは、文政十年(1827)のころですから、150年を超える長い歴史があります。これを最初に考えたのは、仁和寺門跡第二十九世濟仁親王という人です。彼は、お年寄りや子供たちが四国に行って巡拝をするのは、とても大変なことだと考えました。彼の命令で、久富遠江守という人が、本物の四国に巡礼に行って、霊場の土を集めて、京都に帰ってきました。御室新四国は、その土の力で、本物と同じ霊場になったのです。

仁和寺の境内を通り抜けると、上り口があります。ゆるい坂を上り、50メートルくらい行くと、自分がもう俗世間を離れていることを感じるすることができます。狭い道の両側には、



今年十月に入ったところ、日本の友だちからの親切な誘いがありました。それは十月九日、十日両日に行われる「高山祭」を見に行くことです。私は、日本で勉強とバイト、そして国際交流、キリスト教会などの行事ばかりでほとんど遊びに行く暇がなかったです。せいぜい関西地区に限られた範囲内で何回か見物した覚えがあります。まして、今年八月末まで、私は大阪市立大学大学院と大阪大学大学院の入学受験勉強で、ずっと遊ぶ気分を抑えて来ました。

というわけで、ちょうど大学院の進学が決まった後の誘いですから、私は喜んで一緒に連れて行ってもらいました。

自然がいっぱいあります。木や草が、風に吹かれる音や、虫の鳴き声や、鳥が羽ばたく音だけが聞こえます。途中に、いくつか池があります。濁っているけれど、綺麗な色です。水面には枯れて倒れた木が顔をだしています。そして、今年もう終わってしまいましたが、紅葉が素晴らしいです。ここの紅葉は、有名な東福寺とか、三千院よりも綺麗かもしれませんが、途中、少し急な坂もあります。でも、それを上ると、とても景色の良いところがあります。京都の町が、ほとんど全部見えるのです。その近くでは、弘法大師さんの像に会うこともできます。

そして意外なことですが、この場所はあまり有名でないみたいです。遠くからくる観光客のような人が、あまりいません。私が歩いていて出会う人たちは、ほとんど近くの人ようです。初めて会っても、お互いに「こんにちは」と挨拶します。私たちは皆、歴史や、自然や、出会いを求めてやってくる「旅人」の仲間です。皆様の近くにも、このような楽しい日本の旅があるかもしれません。是非、探してみてください。

## 飛驒の旅

世話クラブ：京都山城ロータリークラブ

### 荘 発 盛 (マレーシア)

帝塚山大学4回生

実はその誘いは友人のお父さんが間接に声をかけたらしいです。そのお父さんは荒木譲(あらかきゆずる)という方なのですが、非常にフレンドリでおもしろいだけではなく、親切で楽しい人です。友人のお父さんとはいえ、私は彼のことを「ジョウちゃん」と呼びたいくらいです。というのは、彼はいつも私のことは兄弟だと見て下さっているからです。しかも、彼が弟で私の方こそ兄だというのです。

私とその友人が大阪駅から敦賀駅まで電車で行きました。ほかにあと二人の友人と私たちと一緒に来て来ました。電車の中でいろいろしゃべりながら窓から素晴らしい景色を見ていました。私は小さい時から、乗物に乗

ってゆっくり窓から景色を見ながら旅行気分になるのが好きです。ですから、距離が長ければ長いほど楽しくなるのです。私はマレーシアでは高校まで一度も鉄道関係の乗り物に乗ったことはなかったもので、とても鉄道の旅を憧れていました。ところが、日本に来てから、しょっちゅう電車に乗るようになったわけですが、それはただ単に通学、あるいは通勤のために乗っているだけで、まったく私の憧れと大きく食い違っているものです。まして、満員電車がほとんどのケースです。地下鉄は便利なことは便利なのですが、私のように窓から景色を見ながら乗り物に乗ることを憧れている人にとっては、ちょっと残念なことになってしまうのです。

ですから、私はこの電車に乗って、窓から外の山、川、空そしてどこまでも続く緑だくさんの大自然を見て、胸いっぱいでした。こうして、約2時間以上乗りましたが、私はすっかりほかの三人を無視してしまひました。窓の外の景色に全然目を離さず酔ってしまいました。ようやく敦賀駅について私たち四人一緒に電車を降りましたが私は未練を残しながら駅から外に出ました。

外に出たら、とっくにそこで私たちを待っていた友だち（これからこの友だちのことをミオと呼ぶことにし、ほかの二人は、それぞれ、ウレイとケンちゃんです）のお父さんがいました。実は彼が実家の京都府綾部市（丹後半島の近く）から出発して私たちと敦賀で合流し、ここから私たちが彼の車に乗って再出発のことになっていたのです。

ミオのお父さんとは初対面なのですが、非常に楽にさせて下さる方なので、私とウレイとケンちゃんとすぐ仲よくなりました。運転が上手でとても落ち着いた方なので、安心して心地よく乗っていました。緊張感がほぐれると、私は再び窓の外の景色を狙い始めました。やはり、乗り物の中でこうして景色を眺めるのは最高です。

私たちはこうして飛騨（ひだ）にある国府町に向かっていきました。ここのすぐ隣には高山市になるのですが、高山祭りを見るには近い方です。

私たちは国府町にある「あぶらむの宿」という家族的な民宿で2泊する予定です。そこには、実はミオのお父さんの大学時代の同級

生で大郷さんの家庭であり、母さんと子供たちがいて、みんなワイワイガヤガヤ元気に暮らしています。そして旅の客人たちは、その家庭の笑いに包まれながら、次の旅路に出て行くのです。でも、単なる民宿というわけでもありません。

あぶらむの里には、畑があり、田んぼがあり、木工所があり、そこで働く人達が何人か住み込んでいるのです。人生の旅に迷い疲れた人達が、体を休め、心をいたわりながら、林の緑と清流のせせらぎに包まれて暮らしているのです。深い緑に包まれた、奥飛騨の山あいの宿屋です。田舎の旧家を移築した、どっしりした旅人の宿です。黒くて太い柱が、ゆったり時を刻んでいます。裏の山にはナラ林がひかえ、窓の外には田んぼの緑を見ると大変心が休まるのです。これだけではなく、夏にはホタルの飛びかう清流が、気持ちいいほど流れているのだと大郷さんがおっしゃるのです。

余談ですが、私はクリスチャンでありながらも、「あぶらむ」という名前には全く気にならなかったです。その後に教えてもらったのですが、それは旧約聖書に出てくる信仰の父「アブラハム」の旅立ちの前の名前、「アブラム」に由来しているのです。それによれば、彼はその内的必然性故に、安住の地を離れて「行く先知らずして」旅立ちました。全てに対してあまりにも安定を求める今日、私たちは旅としての人生に臆病となり、旅に必要な能力を欠いているように思われますというような内容でした。

とにかく、高山祭も素晴らしかったのですが、私はむしろその本来メインであった祭の見物よりも、意外と色々な収穫ができました。



## 京都の旅

世話クラブ：加古川中央ロータリークラブ

### ニンユコ (ミャンマー)

神戸大学修士課程

京都は歴史が古い町と前から聞かされていて、私にチャンスがあれば旅にしたいと思っていました。そこで、今年の11月15日に京都をたずねることにしました。その日は寒からず、暑からず、とってもいい気候でした。

阪急京都線の河原町駅で降りて朝食を京都の有名な八つ橋と言うお店でにしんそばを食べて、土田麦僊の京都国立近代美術館で日本画展を見ました。罰と言う絵は学校でおこられた女の子一人と男の子二人の絵でした。女の子は顔をハンカチでなみだをふきながら、なっているすがたと男の子二人の中で一人はなっている女の子をにらんで、もう一人は何かを考えているすがたを見て、とってもいきいきとした絵と自分の心に残りました。他には舞子さんの絵と大原女の絵も気に入りました。

それから、紅葉の名所の永観堂に行きました。紅葉はみどり色、黄色、赤色のコントラストできれいにみることができました。ミャンマーでは紅葉を見ることはできませんので、本当にすばらしいと思いました。池に水鳥がたくさんいて、松の木もあって目を楽しませてくれました。めずらしい秋の紅葉を見ることをあじわいたかったけど、大ぜいの人たちでゆっくり見られませんでした。もし、しずかに見ることができれば、もっとよかったと思っています。それを見てから、哲学の

道を長いと思わずに最初から最後まで歩いて、1時間ぐらいかかってたいへんつかれました。しかし、私も哲学者のまねをして、自分の人生についてすこし考えましたのでそのことをいつも忘れたくないです。

次に五山の送り火で知られた大文字山の西、月待山のちかくに位置された銀閣寺に行きました。東山殿当時の観音殿と東求堂の遺構と観音殿の前にある砂の造型をめずらしく思いながら見ました。その銀閣寺の名は俗称であり、正しくいえば東山慈照寺です。そして、東山文化の伝統のことで、日本の文化の中で、茶道、華道、香道、能などの日本を代表する伝統文化はこの東山文化の中から生み出されていることと現存する最古の書院造り、四畳半の間取りの原型である東求堂内の同仁齋を目にすることができました。

京都のいろいろなお寺を見物することもできました。日本のお寺はミャンマーのお寺と形から内部でかざっているものまですべてが違います。日本のお寺を見ると歴史にきざまれていたことをたくさん勉強することができました。京都は人が多くてバスに乗るのはなかなかむずかしいです。夜7時ごろ、大原女という京都の有名なお店で夕食をとって帰りました。今回の旅は日本の文化を学ぶことと紅葉のうつくしさを感じたことで満足いっぱい楽しい旅でした。



## 京都の旅

世話クラブ：龍野ロータリークラブ

### 孫 宝 磊 (中国)

神戸大学修士課程

「清水寺はどこですか」というのは、中国で日本語を勉強した時に、テキストの中に書いてあった例文です。日本と言えば京都、京都と言えば清水寺。日本についてあまり知識

のなかった私は、当初、頭の中で清水寺の風景を想像しました。

「一度京都でも行こうか」とカウンセラーの三渡先生から誘われると、思わず「はい、

行きましょう」と嬉しく返事をしました。日本に来て一年半でしたが、京都にはまだ一度も行きませんでした。「京都はどんな様子だろうか」と想像しながら、旅行の日を待ちました。

11月のある土曜日、三渡先生ご夫婦、私と妻と四人で京都へ向かって出発しました。妻は日本に来たばかりで、今回の旅を特に楽しみにしました。「せっかく京都に行きますから、昼食は湯豆腐にしましょうか」と車の中で、三渡先生はこう言いました。「ゆどうふ？、中国でも食べたよ」と妻は小さい声で私に聞きました。「それは、湯豆腐は君の知っている油豆腐ではなくて、お湯の中に豆腐を入れるよ」と私は偉そうに説明しました。実は私も湯豆腐というものがあると知るだけで、食べることはありませんでした。

そう言っているうちに、車はもう京都に着きました。車窓の景色はいつか変わって、古い町並になりました。ちょうど紅葉の季節であったからなのでしょう、観光客が多いです。しかし、全然うるさいというイメージではなく、観光客も、建物も、木も一つのメロディーにうまく溶け込んで、静かに流れています。「これは日本だ」と心のなかで思わずこう思いました。私は今大阪のある繁華街に住んでいて、その前上海に住んでいました。どちらも人が多くて、たいへん賑やかな所です。上海と比べて、大阪は別に住みごこちが悪いではないが、何となく今の「日本」と上海にいた時想像した「日本」と違うという思いが心の中に残っています。京都の町並を見るとたん、やっぱりほっとしました。

私たち四人は三寧坂にある料理屋さんに入ることになりました。きれいな和服を着ている

若い女性は出てきて、「おいでやすー」と言って、私たちを店の中に迎入れました。店は小さく、畳を敷いています。中に二、三組の客が食べながら、小さい声でしゃべっています。畳の上に座るのは、私にも妻にも難しい技です。しかし、こういう時は、日本人みたいに振舞わないと、何か違和感でさえも感じます。ちょっとしてから、湯豆腐が出てきました。湯豆腐と言って、豆腐をお湯の中に入れて、何も味がないだろうと思いました。ところが、その豆腐を食べると、たしかに何か味が含まれています。聞きますと、それは昆布の入ったお湯で煮たからだそうです。あっさり、京都らしい味でした。

店を出て、清水寺に入りました。寺自身はあまり大きくないけど、山の景色とよく似合っています。特に11月の上旬では、紅葉もちょっと色が付き始めました。紅葉の間から遠くにあるお寺の屋根がほんやりと見えます。お守りは日本の寺の欠けない風景です。皆自分の願いを小さい木の板や、紙に書いて、いろんな所に掛けます。「交通安全」とか、「大学進学」とかいろいろな願いを書いてあります。中国の場合は、心の中で自分の願いを言ったら、お仏様が聞いてくれると言われていますが、日本は書かなければいけないそうです。日本のお仏様はたくさん読まなければいけなくて、疲れるでしょうなと密かに思いました。

京都のお寺はたくさんあります。二、三か所だけ回ると、既に夕方になりました。帰りに三渡先生からお土産で大根の漬物をもらいました。家に帰って食べると、あっさりした味で、静かな京都の町を思い出されます。

## 神戸の旅

世話クラブ：尼崎北ロータリークラブ

葉 意 雯 (台湾)

神戸大学修士課程



私が日本へ来て6年が経ちましたが、思い起こしてみると旅行にいった回数はあまり多くありません。「日本での楽しい旅」というタイトルについての原稿を頼まれた時、私が

5年間住んできてとても愛している“神戸”という町のことについていろいろ思い出しました。

私が過ごしてきた神戸という町は、壁のよ

うにそびえ立つ六甲山の南に、東西に細長く市街がひろがっています。昔も今も、外国に広く門を開いている国際的な港町であり、明るくエキゾチックな雰囲気を持っています。また、山と海がとても近いので、至る所に坂があります。(私の通っている神戸大学も、とても急な坂をのぼっていかねばなりません。)

初めて神戸に来たのは六年前の春でした。私は母と、保証人の家に一週間ほど泊まり、いろいろなところを見学しました。「市内観光をするには、シティーループが便利ですよ。」と、保証人が教えてくれたので、利用してみることにしました。シティーループとは、神戸の観光地をすべて案内してくれるバスで、便利なおうえにとっても安いので、みなさんも神戸に来たら利用してみたいはいかがでしょう。

神戸といったらまず異人館だと思い、母と二人で三宮からバスに乗って異人館へ向かいました。まず目に入ったのは北野坂でした。外国人の居留地として、明治から異人館が建ち始めたのがこの北野であったので、今でも外国を旅しているみたいでロマンチックでした。爽やかな風を浴びながら、風見鶏の館から見た神戸の町はとても美しいです。私たちは、異人館のチケットを買い、写真を撮ったり、お土産を買ったりしてまわりました。今思い出してみると、震災前の異人館はやはり今より生き生きしていたのかなあ。

異人館の後は、新神戸でロープウェーに乗って布引ハーブ園に行きました。ハーブ園には様々な香水や香辛料がおいてあり、いろいろな香りにふれることができます。また、頂上からの景色はとてもすばらしく、そこから新神戸までは、ハイキング・コースもあるので歩いて降りていってもおもしろいと思います。私達は、このコースを通過して下りていたのですが、途中にある布引の滝はとてもすばらしく感動しました。

その日の夕方、南京町で食事を取り、ハーバーランドへ行って、一日の市内観光は終わりました。

私と母の、旅行記のようになってしまいましたが、神戸を短い間で知るためには、最高のコースだと思います。

神戸という町は昔から、いろいろな国から

夢を持って集まって来た人の足跡を感じることが出来る町です。この町は、日本人とともに外国の人々がつくった歴史という物語の上に存在しています。私も、この町の物語に現在参加しています。みなさんも神戸を訪れて、この物語に参加してみませんか？



(葉意雯さんの篆書作品です)



(学友会平成9年秋の懇親会)



(第2回役員会議)

# 1997年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

1997年7月1日現在

会 長	清河雅孝 京都産業大学法学部教授 〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[京都東R.C.] ☎:075-594-2029(H) FAX:075-594-5249(H)
幹事長	梁 官洙 大阪経済法科大学研究員・講師 〒544-0032 大阪市生野区中川西1-19-1	[大阪住之江R.C.] ☎・FAX:06-741-5065(H)
副会長		
D-2650	文 楚雄 立命館大学経済学部助教授 〒604-8443 京都市中京区西ノ京島ノ内町21番地 ネオコーポラス島ノ内B-814	[京都西北R.C.] ☎:075-823-2663(H)
D-2660	顧 海松 松下電工(株) 〒565-0824 大阪府吹田市山田西4-4-14-505	[大阪東R.C.] ☎・FAX:06-878-6061
D-2680	王 充志 明光証券 〒559-0024 大阪市住之江区新北島コーポ4-703	[西宮甲子園R.C.] ☎:06-682-8250(H)
相談役	重光世洋 大阪産業大学工学部教授 〒630-8054 奈良市七条西1-11-19	[大阪R.C.] ☎:0724-44-5004(H) 0720-75-3001Ex3711(O)
顧問	林 錫璋 桃山学院大学経済学部教授 〒593-8327 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R.C.] ☎・FAX:0722-62-4633
会計監査	荘園福松 税理士 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4コーポ野村梅田A-216	[神戸R.C.] ☎:06-375-1070(H)
学術	呉 賢龍 甲子園大学経営情報学部助教授 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R.C.] ☎:06-301-3358 FAX:06-300-5271
庶務	林 文彬 大阪職業能力開発短期大学講師 〒596-0035 岸和田市春木泉町3-7-302	[京都東R.C.] ☎:0724-36-1528(H)
書記	ピラール・イリヤス (財)京都高度技術研究所研究員 〒606-0933 京都市左京区松ヶ崎西山13 松本方	[京都北R.C.] ☎:075-722-8653(H)
会計	張 鑫隆 京都大学大学院博士課程 〒606-8202 京都市左京区田中大堰町88-5	[高槻R.C.] ☎・FAX:075-724-4869(H)
会計	陳 禮俊 京都大学大学院博士課程 〒606-8122 京都市左京区一乗寺東閉川原町19 リライブ修学院204号室	[京都南R.C.] ☎・FAX:075-721-8909(H)
親睦	呉 淑芬 (株)コベルコ科研 〒650-0003 神戸市中央区山本通2-13-10	[神戸須磨R.C.] ☎:078-221-5160
親睦	權 貴玉 アトリエ四季 〒601-1394 宇治市池尾南組31-2	[園部R.C.] ☎:0774-20-4587(H)
国際交流	豊田秋雄 豊田齒科 〒565-0061 吹田市円山町15番28号	[大阪西南R.C.] ☎:06-330-3555(H)
会報編集	陳 麗華 大阪産業大学教養学部講師 〒555-0001 大阪市西淀川区佃5-12-5-905	[奈良R.C.] ☎・FAX:06-477-2832(H)

米山奨学生学友会(関西)  
1996年度会計収支決算報告書

自1996年4月1日  
至1997年3月31日

収入の部		
科 目	金 額	備 考
前年度の総会予備金	437,081	50名×2,000
総会の参加費	275,000	
通常会費	100,000	
特別会費	111,000	
寄付金	88,000	
米山奨学会補助金	450,000	
援助交付金	350,000	
利息	196	
合 計	1,811,277	

支出の部		
科 目	金 額	備 考
総会費用	512,781	
役員会議費用	29,700	
交流会費	583,001	
通信費	35,191	
交通費	5,920	
事務用品費	63,488	
広報及び印刷費	57,419	
雑費	31,926	
次年度への総会予備金	491,851	
合 計	1,811,277	

住友/四条普通預金 NO.1372864 ￥350,991  
 郵便局 NO.14430-28819591 ￥71,102  
 郵便局 NO.00990-9-43449 ￥3,940  
 現金 ￥65,818

私は、1996年(1996年4月1日から1997年3月31日まで)における会計の監査を行い、次の通り報告します。

収支計算書、財産目録は会計帳簿及び関係証憑書類の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認めます。

会 計 監 査 荘 園 福 松 捺 印

米山奨学生学友会(関西)  
1997年度会計予算案

自1997年4月1日  
至1998年3月31日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度の総会予備金	491,851	
通常会費	100,000	50名×2,000
米山奨学会補助金	200,000	
援助交付金	550,000	D-2680 100,000 D-2650 100,000 D-2660 250,000 D-2680 100,000
合計	1,341,851	

支出の部		
科目	金額	備考
総会費用	350,000	
役員会議費用	50,000	
交流会費	200,000	
通信、交通費	50,000	
事務用品費	80,000	
広報及び印刷費	300,000	
雑費	40,000	
次年度への総会予備金	271,851	
合計	1,341,851	

# 米山奨学生学友会(関西)1997年度活動報告

## 1. 主な行事

- A. '97年度総会及び新規奨学生歓迎会  
日 時:1997年6月15日(日)  
場 所:大東洋(大阪市)  
参加人数:ロータリアン 27名  
          OB会員 26名  
          新規・継続奨学生 40名  
内 容:'96年度の各報告、役員紹介、懇親会

## B. 学友会秋の懇親会

- 日 時:1997年11月2日(日)  
場 所:姫路セントラルパーク  
参加人数:ロータリアン 1名  
          OB会員 20名  
          OB会員家族 34名

## 2. 役員会

- A. 第1回、'97年5月2日(金)にて  
内容:新役員紹介、6月に開く総会の役割分担及び会報13号をOBに分配  
B. 第2回、'97年9月20日(土)、  
京都市国際交流会館にて  
内容:会報編集マニュアルの紹介及び秋の学友懇親会の方針を決定  
C. 第3回、'97年10月12日(日)、  
カフェテリア インビス(京都市)にて  
内容:会報14号の編集方針と予定について  
D. 第4回、'97年12月7日(日)、  
カフェテリア インビス(京都市)にて  
内容:会報14号の編集について

## 会 員 の 消 息

- 林文彬氏に平成9年8月28日長男のご誕生
- 陳禮俊氏に平成9年12月22日次男のご誕生  
陳禮俊氏の著書『アジア環境白書 1997/98』  
(その中の「台湾」部分)東洋経済新報社で出版
- 王昭文氏に平成10年3月24日学術博士の取得
- ビラール・イリヤス氏に平成10年4月1日に  
立命館大学経済学部専任講師の就任

皆さん、どうもおめでとうございます。

## '98年度学友会会報15号の原稿募集

- テーマ:私の日本での生活の知恵

字 数:1,000~1,600字。写真添付。

締 切:1998年11月31日

送付先:〒544 京都市山科区御陵牛尾町72-7 清河雅孝

TEL:075-594-2029 FAX:075-594-5249

投稿者には、図書券をさし上げます。皆様の素晴らしいエッセイをお待ち申し上げます。

## 相 談 コ ー ナ ー

学友会は留学生のために相談コーナーを設けました。さしあたり、次のような分野と担当者を決めました。ご利用ください。

商 法 関 係:清河雅孝 〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7

TEL:075-594-2029

FAX:075-594-5249

民 法 関 係:林錫璋 〒593-8327 堺市鳳中町8-284-7

TEL:0722-62-4633

FAX:0722-62-4633

税 理 関 係:荘園福松 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4

TEL:06-375-1070

コーポ野村梅田A-216

マーケティング関係:呉賢龍 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北一丁目6-20

TEL:06-308-4070

FAX:06-300-5271

米山奨学会 学友数

1997. 9. 10 現在

9月10日現在の学友の状況

日本在住学友数	1644名
海外在住学友数	4087名
住所不明	655名
合計	6386名

◎在日学友会別人数

学友会

2530	2530地区 福島県在住	6名
2550	2550地区 栃木県在住	22
2820	2820地区 茨城県在住	82
2560	2560地区 新潟県・群馬県在住	37
2570	2570地区でお世話 関東在住	21
2770	2770地区でお世話 関東在住	30
東京	東京(2580・2750)でお世話 関東在住(東京・埼玉・神奈川・千葉)	247
	関東以外でお世話 神奈川県・千葉県を除く関東在住	126
		(373)
2590	2590地区でお世話 関東在住	73
	関東以外でお世話 神奈川県在住	44
		(117)
2780	2780地区でお世話 関東在住	50
2790	2790地区でお世話 関東在住	37
	関東以外でお世話 千葉県在住	33
		(70)
愛知	2760地区 愛知県在住	84
2640	2640地区でお世話 関西在住	49
	関西以外でお世話 和歌山・大阪(2640地区)在住	5
		(54)
関西	2650地区でお世話 関西在住	88
	関西以外でお世話 京都・福井・滋賀・奈良在住	13
		(101)
	2660地区でお世話 関西在住	69
	関西以外でお世話 大阪(2660地区)在住	19
		(88)
	2680地区でお世話 関西在住	49
	関西以外でお世話 兵庫県在住	8
		(57)
西日本	2670地区 四国全県在住	24
	2690地区 鳥取県・島根県・岡山県在住	22
	2710地区 広島県・山口県在住	45
	2700地区 福岡県在住	65
	2740地区 佐賀県・長崎県在住	24
	2720地区 大分県・熊本県在住	24
	2730地区 宮崎県・鹿児島県在住	12
		計 1408名

◎学友会のない地区の在住者

地区	在住数	地区	在住数
2500 北海道在住	3名	2580 沖縄県在住	14名
2510       "	23	2600 長野県在住	29
2520 岩手県在住	5	2610 富山県在住	18
2810 宮城県在住	48	" 石川県在住	17
2800 山形県在住	8	2620 山梨県在住	7
2540 秋田県在住	7	" 静岡県在住	22
2830 青森県在住	3	2630 岐阜県在住	23
		" 三重県在住	9
		計	236名

◎海外在住学友数 \*( )内は国籍別人数

台 湾	.....	1481 (2229)
韓 国	.....	1205 (1829)
中 近 東	.....	18 ( 24)
アフリカ	.....	52 ( 70)
中・南米	.....	66 ( 101)
北 米	.....	218 ( 43)
ヨーロッパ	.....	35 ( 49)
ア ジ ア	.....	788 (1209)
(台湾,韓国,中国,ベトナム以外)		
ベトナム	.....	25 ( 196)
オセアニア	.....	35 ( 22)
中 国	.....	164 ( 614)

※台湾韓国には学友会があります。

〈 名 称 〉

台 湾：扶輪米山会（平成9年に社団法人台湾扶輪米山会に代りました）

韓 国：韓国米山奨学生学友会

2003

44  
176

1997年度米山奨学生学友会関西地区会員名簿

奨学生の番号順で次の通り

1997年12月現在

重光 世洋	00066	竜 嘉哲	02520	葉 淑 節	04508	謝 意 如	05469
中山 勝富	00168	張 哲 珉	02550	徐 漢 競	04531	黃 俊 卿	05471
上條 勝常	00170	陳 麗 華	02739	金 芝 均	04532	金 肅	05475
林 錫 璋	00204	林 琇 春	02747	黃 愛 玲	04544	辛 有 美	05483
香島 明雄	00235	朴 美 子	02750	李 楚 倫	04547	張 起 權	05496
沈沢 政男	00262	梁 官 洙	02788	柳 美 成	04550	左 容 昊	05498
郭 顯 榮	00372	姜 兑 欣	02791	徐 源 亨	04554	吳 玟 定	05504
郭許 瑤琴	00465	朴 鍾 祐	02793	林 文 彬	04629	柳 正 鐸	05510
徳山 卓也	00497	王 充 志	02796	金 玉 善	04634	陳 宏 立	05512
清河 雅孝	00577	吳 淑 芬	02798	劉 兵 華	04636	河 準 洪	05513
林 茂 宏	00584	藤森 信一	02987	王 華	04663	姜 明 子	05517
豊田 秋雄	00590	金 秀 芝	02992	羊 亜 平	04685	金 政 旭	05519
林 宏 作	00596	蕭 麗 幸	03022	徐 慈 懷	04689	梁 國 華	05572
東 正伯	00651	蔡 錦 玲	03054	廖 朝 暉	04699	季 勁 松	05604
西原 正雄	00721	蔡 秀 娟	03059	王 毅 毅	04702	許 点 淑	05610
宮崎 ちな(幸珍)	00734	王 石 明	03399	顧 海 松	04706	林 晶 紅	05676
魏 栢 良	00972	全 玟 樂	03401	于 水	04712	李 焜 煜	05690
莊園 福松	00975	肖 敏 悟	03503	劉 莉	04713	劉 春 江	05691
黄 光 前	01109	李 東	03510	劉 紹 明	04714	馬 石 平	05692
大田 一博	01122	辜 秀 秀	03724	崔 賢 淑	04969	王 永 金	05696
南 俊彦	01135	林 妙 音	03727	徐 慧 如	04972	嚴 偉 琪	05697
武田 維明	01140	林 云 鉉	03728	孫 寶 徽	04992	徐 平	05703
張 壁 東	01266	朴 三 用	03750	李 文 英	05005	史 惠 新	05705
鍾 雲 海	01279	譚 珊 珊	03751	林 信 男	05007	優努斯 多力坤	05706
吳 賢 龍	01409	金 寶 英	03752	戴 金 燕	05010	王 柏 森	05708
廖 登 稔	01440	黃 曉 芬	03840	柳 成 林	05013	蔡 惠 良	05715
羅 成 純	01467	楊 克 儉	03841	曹 美 庚	05014	金 衝 坤	05876
李 惠 玲	01538	江 國 平	04055	李 惠 儀	05017	蔡 妃 甯	06051
文 燕 友	01549	崔 冷	04056	張 昌 聖	05022	秋 香 美	06054
石田 光雄	01588	吳 賜 金	04070	包 四 林	05074	傅 俊 豪	06056
車 季 南	01700	黃 鎮 杰	04095	崔 銀 珠	05097	黃 愛 玲	06057
黄 晨 昌	01704	金 高 男	04098	李 振 宝	05098	金 炯 洙	06058
劉 明 治	01709	金 容 珣	04100	孫 國 強	05099	金 錫 九	06059
吳 俊 雄	01739	王 昭 文	04103	張 紅	05104	賴 愛 華	06060
竹田 淑惠	01752	尹 淑 鉉	04105	張 建 明	05105	李 美 淑	06061
松井 仁淑	01884	徐 貴 淑	04186	肖 麗	05131	李 尚 薰	06062
藤原 エミリオ	01891	馬 燕	04214	劉 民 涼	05168	林 大 凱	06063
鄧 尚 昇	01893	文 楚 雄	04215	周 瑋 生	05172	文 成 權	06064
早川 由美	02077	龐 孟 炘	04417	鄭 霞 清	05173	孫 好 實	06068
張 謙 益	02089	張 瓊 文	04487	伊力亞司比拉勒	05174	楊 智 濱	06070
辛 嘉 靖	02260	金 明 珠	04494	郑 甘 澍	05179	張 鑫 隆	06087
高樹 亮一	02467	金 淑 姬	04495	張 曉 輝	05183	黃 永 融	06089
權 貴 玉	02475	劉 慧 真	04500	蘇 燕	05187	金 伯 姬	06090
唐沢 宗良	02498	朴 信 貞	04503	陳 禮 俊	05467	呂 洙 煥	06096

朴 在 鉉 06098	王 薇 06226	劉 青 青 06320	李 灿 06338
宗 在 晟 06099	徐 熒 06285	劉 新 偉 06321	李 虎 06340
柳 秀 林 06101	劉 萌 06295	卢 蓄 06322	李 玉 軍 06341
張 秀 寶 06102	向 上 06299	沈 揚 06324	岳 秉 飛 06344
崔 基 善 06103	張 震 華 06313	宿 瞳 06325	周 嵩 嵩 06345
鄭 仁 順 06104	陳 惠 君 06314	俞 梅 06326	劉 振 軍 06348
鄭 逸 教 06105	紀 群 06315	張 真 先 06334	孫 榮 榮 06349
許 恩 娥 06108	建 賀 勛 06317	陳 婉 萍 06335	陶 虹 虹 06350
李 純 止 06111	黃 來 芳 06318	蔣 青 虹 06336	陳 翀 翀 06351
李 載 旼 06112	梁 熙 艷 06319	古 虹 06337	樂 萌 萌 06359
陳 淑 美 06114			

リー・ファット	00729	マイティン, シャフル・ハミード・ビン	04805
トラン・コン・ティエン	01139	コンセプション, アーネル・ペリゴン	04931
バハードル, サルダール・カール	01258	ビック, シティワンノー	04967
フィーノ, ジュゼッペ	01274	ハッサン, サルミナ	05514
ベリーニ, リノ	01308	イルワン	05516
モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	トン・オン	05695
リー・ケン・チョアン	03170	ティン・エイ・エイ・コ	05707
ザヤニ, モハメッド・ヘディ	03400	バガンブラ, ジャン・ロジャー	06085
プラダン, ジャヤ・ラム	03405	マランタ, アドリアーノ	06097
リム・チン・チョウ	03749	キャチペアラッチ, カリヤーニ・W.	06109
シュレスト, ディネス・プラサド	03754	ライン, エイ・ティン	06347
サコ, ウスビ	04504	ビスタ, ビドゥル	06385
ウォーターズ, カレン・ジュリア	04507	ウピタンジュン	06387

## 編 集 後 記

最近はずいぶん暗いニュースが多くて、心が痛みます。しかし、不況に負けぬように必死に頑張っている人々の姿を見て、勇気づけられます。皆さんもそれぞれ目標と理想を追求しておられると存じます。

結果や成績ばかりとらわれず、たまにゆっくりと回りの景色や新しい風土を味わってみてはいかがなものでしょうか？人生の喜び・幸せはそんなゆとりの心にあると思います。今年度のテーマは「日本での楽しい旅」で、すばらしい原稿を沢山応募頂きました。

会報の内容がマンネリにならないように毎年少しづつ変化が必要です。スタッフ一同の努力もさることながら、一番大事なのは、会員及び、奨学生のご支援でございます。アドバイスやリクエストがありましたら、宜しくお願いします。

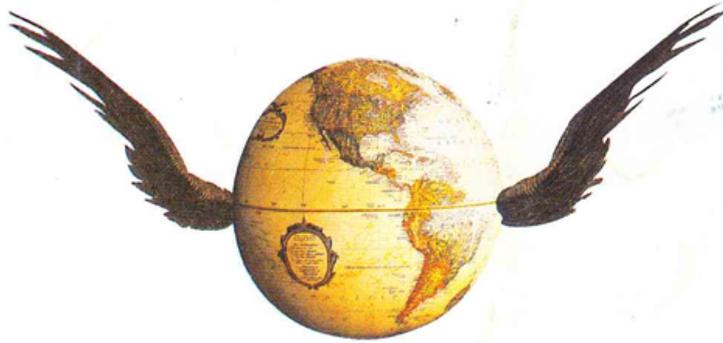
添付の返信用はがきをご利用下さいませ。

### 編集委員

清河雅孝  
文 楚雄  
張 鑫隆  
陳 禮俊  
權 貴玉  
王 充志  
陳 麗華

会報編集代表

陳 麗華



ROTARY  
YONEYAMA  
SCHOLARSHIP  
ALUMNI  
ASSOCIATION